

2019年度 事業報告書

2019.4.1 → 2020.3.31



2019年度の事業を

無事に終えることができましたことを、

私たちを支えてくださる全ての皆様に

感謝の気持ちとともにお知らせいたします。

ありがとうございました。

NPO法人という言葉さえ理解されなかった時代にスタッフ3名でスタートした団体は、事業数が増えスタッフが20余名となりました。その間に社会は大きく変化しました。これまでの歴史に加え、時代に合った新しい法人をどのように作っていくかを考えることからスタートした5月。日々の業務から感じる社会課題や矛盾を自らが事業化し解決していくことを目標に決めました。そのために『全員でつくるチームになるためのツキイチ全員研修』『新しいビジョン・ミッションを考えるプロジェクト』『経営会議』など、法人のこれからをすることにスタッフ全員で多くの時間を費やしました。その結果、私たちが目指し実現したいと考える未来（ビジョン）、日々果たすべき使命（ミッション）、そのミッションから宝塚NPOセンターとして社会に提供する価値（バリュー）を再構築しました。

2020年3月に目指す方向性を団体内で共有し、2020年度に期待を持って動き出そうとしたさなか、想像もなかった新型コロナウイルス感染症の広がり。私たちが考えていた『当たり前』は砂上の楼閣の様に一風で吹き飛ばされるものだと思い知らされました。これからの社会はこれまでの社会とは異なることは容易に想像がつかず。

とはいえ、その社会を作るのは他ならない私たちだと考えると恐れる必要はないと思っています。マスク不足が叫ばれる中マスクを作り続ける人たちや、緊急事態宣言や自粛の結果売れ残った商品を購入し、事業者を助けるサイトが立ち上がるなど、『市民活動』という堅苦しい言葉には当てはまらないかもしれませんが『市民の柔軟な動き』がそこに存在するからです。

ダーウィンが言った「最も強いものが生き残るのでなく、最も賢いものが生き延びるのでもない。唯一生き残ることが出来るのは、変化できるものである。」人間は柔軟に変化できる力と技を持っています。

2020年度、宝塚NPOセンターは『様々な人の変化』を支えともに歩む思いです。引き続きよろしく願いいたします。



なかやま みつこ
理事長 中山 光子

5つの数字で振り返る 宝塚NPOセンター 2019年度の活動



1年間の相談件数

4,339^{※1}件

2019年度に受けた相談件数を合計すると、なんと4,339件にも上ります。一年間を通じて、たくさんの相談をいただきました。



起業団体数

26^{※2}団体

2019年度は26団体の起業をサポートしました。



ボランティア数

60人

60人ものボランティアに、私たちの活動をサポートしていただきました。



雇用創出数

429人

2019年度は429人の雇用を生み出しました。



講座開催回数

262講座

複数の事業で開催した講座は、合計で262回。多くの方にご参加いただきました。

※1 相談件数の内訳

運営相談	起業相談	就労相談
1,138件	337件	2,864件

※2 起業団体数の内訳

新規	拡充
23団体	3団体

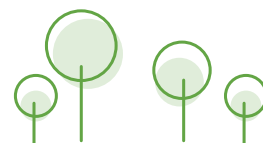
取組み報告 もくじ

実施事業のご報告

2019年度は5つの事業に取り組みました。
各事業に関わりのある皆さまの
インタビューも掲載しておりますので、
ぜひ一緒にご覧ください。



私たちの新しい取組みの ご報告



決算などのご報告



1. 協働の場づくり	05
市民活動促進支援事業／ひょうごアドプト推進業務／きずなの家事業	
2. 人と組織づくり	09
生きがいしごとサポートセンター事業／宝塚市ソーシャルビジネス創業支援事業	
3. 仕事を通じた社会参加づくり	11
職場体験付若者就労支援事業／若年者就労サポート事業	
地域若者サポートステーション事業／就労準備支援事業及び自立相談支援事業 [就労支援]	
4. 地域づくり	15
伊丹市立市民まちづくりプラザ指定管理業務	
5. 市民ネットワークづくり	17

全員でつくるチームになるためのツキイチ全員研修 協力 NPO法人シミズシーズ	19
新しいビジョン・ミッションを考えるプロジェクト 協力 NPO法人シミズシーズ	20
事例紹介 地域とのつながりが生んだ就労支援	21

「中間支援部門」と「就労支援部門」が協力することで生まれた私たちならではの活動レポートです。

2019年度 貸借対照表／活動計算書／2020年度 活動予算書／ 2020年度 特定非営利活動に係る事業計画／2019年度 支えてくださった皆さん／ ボランティア／職員／役員一覧	23
---	-----------



実施事業 1.

協働の場づくり

市民同士の協働、行政と市民の協働、中間支援と市民・行政の協働という3つのつながりの中から、地域のあちこちに対話を生み、お互いの理解を深めながら共に地域を考える参加型の社会をつくります。

- 市民活動促進支援事業（宝塚市）P06
- ひょうごアドプト推進業務（兵庫県）P07
- きずなの家事業（宝塚市）P08



宝塚市良元地区^{りょうげん}まちづくり協議会 中さんに聞きました



宝塚市良元地区まちづくり協議会 会長

なか よしあき
中 義昭さん

まちづくり協議会会長の他に、宝塚市塔の町自治会会長、エイジフレンドリーシティ宝塚 縁卓会議など幅広くまちづくりの活動に携わる。現在はシニアと若い世代がまちについて対話し、考え、一緒により良いまちをつくっていきたくみづくりに取り組んでいる。

高齢化などを理由にまちづくりの担い手が減りつつある中で、地域の情報を発信する「宝塚市みんなのまちづくり協議会ポータルサイト※」が立ち上がりました。宝塚 NPO センターには、良元ブログでの情報発信のアドバイスやイベントなどの活動取材を通して、広く市民の皆さんに活動を知ってもらえるよう支援していただいています (P06)。

まちづくりでは他にも様々な課題が見えてきており、今まで通りのやり方では難しいと感じています。その点でも事例やノウハウをたくさん持っている宝塚 NPO センターに入ってもらうことで、より良いまちづくりにつながっていくと期待しています。

※ <https://takarazuka-community.jp>



みんなが一緒に考え、かかわる地域づくり

宝塚市を良くしたいと思う市民が、最初の一步を踏み出し継続していくための支援と、誰もがまちのことを考え参加できる環境作りを行います。

取り組み理由

「自分のスキルを地域づくりに活かしたい」「こうすればもっと住みよいまちになる」と思いを持って動き出す人たちがいます。その一方、女性の社会進出や定年延長などの社会変化により、これまで地域活動を支えていた層が参加しにくくなり、担い手の不足に危機感を募らせる人たちがいます。

こうした変化に対応するには活動の様式を柔軟に変化させることが大切です。そうすることで活動に関わりやすくなった人たちが参加しやすくなり、新しい意見やアイデアが反映できる新たな参加の形が生まれます。このように変化に対応し、活動の継続・活性化から「誰もが住みやすいまちづくり」につながるよう取り組んでいます。

今年度の成果

今年度宝塚市では、協働のまちづくりを推進する条例案や、まちづくり協議会による今後10年間のまちづくりの方向性を見定めた「まちづくり計画」の策定が進められました。これに合わせて、市民活動に携わる方々に条例案を知ってもらい、市と意見交換する場を持ちました。参加者からは率直な疑問や今後に期待を込めた意見が出され、市民活動団体と市をつなぐ役割を果たしました。また、地域活動への参加につながるよう「宝塚市みんなのまちづくり協議会ポータルサイト」を運営。まちづくり協議会によるブログ発信支援や訪問記事「お出かけまちキョン」により、活動を多くの方々に知ってもらい身近に感じてもらえるよう努めました。【担当：馬越】

数字で見る今年度の成果

NPO法人設立・
コミュニティビジネス起業者数 **13** 団体・人

「お出かけまちキョン」
訪問取材回数 **19** 回

まちづくり協議会
ポータルサイト閲覧者数 **21.5%** 増
(参考：2018年度 29,028件、2019年度 35,259件)



NPO法人やコミュニティビジネスの設立運営相談も引き続き行いました



新しい出会いが生まれた交流会
たくさんの意見が交わされました



良元コミュニティのまち歩き取材した「お出かけまちキョン」



アドプト活動が支える地域の小さな自然

キレイで当たり前と思われている場所は、
もっと住みよい地域になって欲しいという思いを持つボランティアに支えられています。

？・アドプト活動とは

アドプト活動は住民が主体となり、地域の美化意識の向上とコミュニティの活性化を図ることを目的とした地域づくり活動です。

「アドプト」とは「養子にする」という意味の英語で、ボランティア活動を行う団体を「里親」に見立て、県が管理する道路・河川・里山などの活動区域を「養子」のようにお世話（清掃美化、草刈、植栽など）することからこの名称となりました。

🔍 取り組み理由

毎日目に触れる身近な道路・河川・里山は地域の方にとって当たり前のもの。しかし、その当たり前が美しく保たれているのは、アドプト活動団体が地域づくりに貢献しているからです。阪神北県民局がアドプト推進業務を宝塚NPOセンターと協働で実施するようになった12年前は20団体、今年度の参加団体は41団体と倍増しました。これは、阪神北県民局管内での活動区域を広げ、長期に渡って地域の方々へアドプト活動に対する啓発を行った成果です。

📋 今年度の成果

今年度も活動に参加されている団体間の情報共有と交流を深めることを目的に「アドプトをもっと良くする会議」を開催しました。会議では「アドプト活動は地域の重要な環境保全活動であり、誇らしい活動である」「活動の回数を減らしても継続することが大切」という意見が出るなど、全ての団体がこの活動をいつまでも継続していきたいという思いで一致しました。【担当：吉野】



アドプトをもっと良くする会議

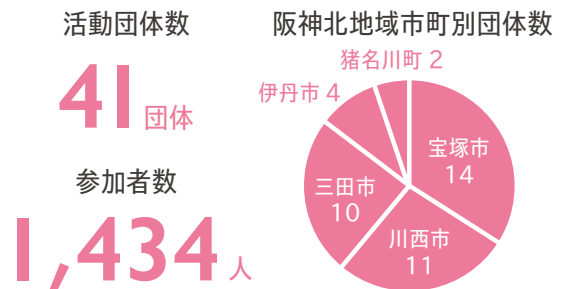


草刈清掃中



里山遊歩道道標取付け

数字で見る今年度の成果





新しいつながりが生まれ、背中を押す場

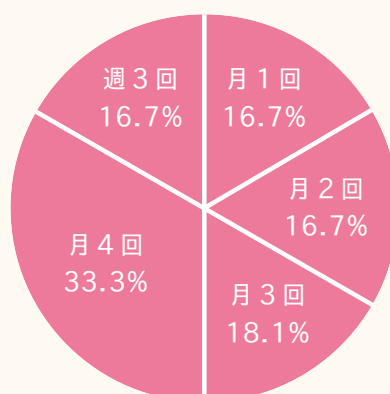
宝塚市のきずなの家事業で運営している『きずなの家 KaRuTa』のコンセプトは、みんなのリビング。地域の皆さんの交流の場や、チャレンジしたい方がチャレンジできる場になっています。

取組み理由

『きずなの家 KaRuTa』がある宝塚市栄町は観光客が多く賑わいがあるまちです。しかし駅近マンションの高齢化率は徐々に進み、今では32.1%にもなります。駅が近く平坦な地形のため、坂の多いニュータウンから移り住んでくる高齢世帯が多いのも特徴です。住み慣れたコミュニティから転居されてきた方には、商業地域であるこの地域には気軽に集える場が少ないのが現状。

そのような状況の中、2015年秋にKaRuTaをオープン。どのような年代の方でもどこに住んでいても、ここに来れば誰かと出会え、話せる場として運営を続けてきました。

KaRuTa 利用頻度



数字で見る今年度の成果

市民ボランティア のべ **387**人

今年度の成果

KaRuTaの運営には多くのボランティアが関わってくださっています。楽しみに来てくださる利用者との会話やふれあいが、ボランティアの皆さまのやりがいになり、KaRuTaが居心地の良い居場所になるように様々な工夫をしてくださっています。

そして KaRuTaは就労を目指す若者の体験の場にもなっています。接客、閉店後の掃除、伝票の整理、売上管理などを実際に体験することで、コミュニケーションを学ぶ機会になり、仕事への不安が軽減され、一步を踏み出すことができ、就職できた若者は少なくありません。KaRuTaの休業日や夜間は、イベントや講座をしたい方に場所を提供。一步を踏み出してみたい方のチャレンジの場にもなっています。そこから新たなつながりが生まれています。【担当：小山】



皆さんが楽しみにされている
『朗読カフェ With 伽羅』



就労体験中の宝塚地域若者
サポートステーションの利用者



実施事業 2.

人と組織づくり

持続可能な組織運営を相談者と一緒に考える姿勢を大切に、コミュニティビジネスやNPO活動を通じて、誰もが主役として参加できる社会をつくります。また、仕事というツールをもちい、誰もが社会とつながることを応援します。



生きがいしごとサポートセンター事業（兵庫県）……………P10

宝塚市ソーシャルビジネス創業支援事業（宝塚市）……………P10



NPO法人スマイル仁川 海野さんに聞きました



NPO法人スマイル仁川 理事長

うんの じゅんこ
海野 順子さん

団体設立のサポートを宝塚 NPO センターで受け、2019年4月に『NPO 法人スマイル仁川』を設立。

障がいのある子どもの親として子どもの成長を見守る中で、障がいのある人も安心して自立して暮らせる地域づくりをめざし、学習支援や運動支援の活動に取り組んでいる。



はじめて団体設立の相談に行ったとき、丁寧に話を聞いてくださいました。紹介された起業講座では、経験豊富な先生や参加者から多くのことを学びました。法人設立後も、相談があって連絡すると親身に対応していただき、感謝しかありません。様々な講座に参加することで、地域の他団体とつながることができ、事業に協力し合う関係もできました。地域に根差した宝塚 NPO センターの講座ならではのようです。今後も地域の団体とつながれるような企画を期待しています。



一人ひとりに合った起業、働き方を応援

社会状況が変化し、価値観が多様化するなか、誰もが主役として参加できる社会を目指し、ライフステージや目指したいことなど、それぞれの人に合った起業や就労支援を行いました。

取り組む理由

人口減少・少子高齢化が進み、右肩上がりの経済成長が終わって久しい昨今、多様な生き方・働き方に興味を持つ人が増えています。また人生100年時代に入り、年齢にかかわらず、すべての人に居場所と出番があることが求められるようになっています。

今年度の成果

新たな試みとしては『シニアの合同企業説明会』を開催。12企業に参加いただき、26人のシニアが来場。企業の方からは「積極的な姿勢や質問に驚かされた」「次回も是非参加したい」という声を、また参加者からは「興味を持てる仕事と出会えた」といった声をいただきました。

他にも新たに、シニアの就労セミナー、身の丈に合った小さな起業を学ぶ講座、ファンドレイジング講座などを開催。起業した女性のネットワークづくりも支援しました。

今年度起業したのは26団体。障がいのある人や子どもの支援、高齢者の居場所づくりといった、社会課題の解決を目指して活動する団体が設立されました。女性による起業が半数を占め、4割がシニア世代による起業でした。

宝塚市から受託したソーシャルビジネス創業支援事業では、経験豊富な講師陣による連続講座、成功事例視察に加え、2018年度に好評だった賀詞交歓会を開催。57人が参加され、多くの出会いを生みました。【担当：小山】

数字で見る今年度の成果

生きがいしごとサポートセンター阪神北事業

新規登録者数

177人

起業団体数

26団体

就職成立者数

175人

相談件数

1,028人

会計や実務・起業に関する講座

14回



尼崎の子育て支援・レンタルスペース「あまびつと」見学



NPO法人の認証を受けた「特定非営利活動法人アイリス」



実施事業 3.

仕事を通じた社会参加づくり

働くことで社会に参加することを支援し、就職成立者を増やします。
また、事業者はもとより多くの市民に現在の雇用状況を伝えることで地域の理解を深めます。

職場体験付若者就労支援事業（宝塚市）……………P12

若年者就労サポート事業（伊丹市）……………P12

地域若者サポートステーション事業（厚生労働省）……………P13

就労準備支援事業及び自立相談支援事業〔就労支援〕（宝塚市）…P14



株式会社あたらし 田端さんに聞きました



株式会社あたらし
たばた りょう
田端 遼さん

1996年兵庫県宝塚市で創業、1998年6月会社設立。
内外装リフォーム全般、畳・襖・建具工事一式を事業内容として展開している。
現在会社の中核を担う次世代リーダーとして、採用と品質管理部門を担当。宝塚地域若者サポートステーションからご採用いただいた若手社員からも、最も頼りになる良き相談役として厚く信頼されている。

当社は人柄重視で採用しています。宝塚地域若者サポートステーションから採用した方々は社内の評判も良く、とても真面目で日々熱心に仕事に取り組んでくれています。ほとんどがアルバイトからのスタートですが、皆さんのひた向きの仕事を会社として評価し、現在多くの方が正社員として活躍しています。その中のお一人は当社のCMビデオ制作にあたり、現場で活躍するメンバー代表として撮影に協力参加してくれました。当社は今後更なる業務拡大に向け、次代を担う若手人材の積極採用を行っているところであり、宝塚地域若者サポートステーションの存在は当社にとっても有難く大変感謝しています。今後も引き続き相互信頼と努力により、Win-Winの関係を築いていきたいと思っています。

詳しくはP13へ



若者の就労をオリジナルプログラムでサポート

宝塚市と伊丹市においてそれぞれのプログラムで就労サポート事業を行いました。

対象は宝塚市が15～39歳、伊丹市は15歳～概ね45歳までの無業者、37名が参加しました。

取り組み理由

現在の若年者を取り巻く雇用環境は完全失業率が3%台とバブル期以来の低水準ですが、若年無業者（ニート）は50万人台半ばで高止まり。中年年齢層では増加傾向です。そんな中、厚生労働省の若年者雇用実態調査では、事業所が正社員を採用する際の若年無業者への評価は「影響が無い」と答えた事業所が約60%に上っており、若年無業者が正社員として採用されるハードルが低くなってきていることも事実です。

このような中で、「働きたい」のに「働けていない」という若年無業者に対し、同じような悩みを抱えている仲間と共に学習し訓練するという段階的カリキュラムは大変有効と考えています。特に地域の方との関わりや、職場体験など社会参加を重視することは就職のイメージ、就労意欲を高め、適切な進路を発見し継続的な就労につながり、一人ひとりに寄り添うきめ細やかな就労支援の形となっています。

今年度の成果

職場体験付きプログラムでは、自己分析、仕事理解、就職活動に向けての面接練習などの講座に加え、調理実習、『ソリオ宝塚ふれあい夏まつり』出店などの体験講座を実施。さらに職場体験では多くの企業の方々に就労の場を提供いただきました。社会とのつながりの中で働く意欲を高めることができ、受講者の半分が新たな進路へと進むことができました。

『伊丹市合同会社説明会&就職面接会』では地元企業11社が参加。地元の若者を採用したい事業所と地元で働きたい若者を結びつける場となりました。

【担当：加藤・藤田】

数字で見る今年度の成果

宝塚	講座回数	18回
	職場体験参加人数	のべ56人
	就職決定率	50%
伊丹	講座開催数 (前期後期合計)	16回
	合同就職面接会 ブース訪問者数	のべ70人
	講座・面接会 就職決定者数	合計20人



コープこうべでの職場体験
品出し中です



調理実習
みんなで協力して作りました



スモールステップで就労への1歩を

一人ひとりの段階に応じて就労に対する多様なサポートを提供できるよう、行政や地域の方々と協働し、理解者・協力者を増やしながらか就労支援を実施しています。

対象

地域を問わず
就労を目指す
15～39歳の方

取り組み理由

15～39歳の人口に占める仕事に就いていない人の割合は2.1%にも登ります。一方、社会では人口減少に伴った労働力の低下、企業の労働者不足、後継者問題、経済活動の鈍化など様々な課題があげられます。こうした中、「働きたい」のに「働けていない」若者の就労を支援することは、課題への一助となること、就労によって自立の可能性が広がり、社会とのつながりを持ち、充実した生活を送るために必要な取組です。

今年度の成果

私たちが大切にしていることの1つが「スモールステップアップ」の支援です。その中でも特に外部での体験機会に注力しました。職場体験では、きずなの家事業で運営している『KaRuTa』で接客の体験（P8）や、協力企業である『生活協同組合コープこうべ』で品出しなどの体験を実施。今回インタビューも掲載した『株式会社あたらし（P11）』では、就労前に職場見学を実施。会社の雰囲気を知ることによって利用者は安心して働くことができました。このように、私たち内部の力だけでなく、外部の力と連携することで生み出される経験が、就労を目指す利用者の自信をつけるための、安心して踏めるスモールステップアップの場となりました。今後もより多くの理解者・協力者を増やしながらか、一人でも多くの就労を応援していきます。【担当：高瀬】

15～39歳の若年無業者数

〔令和元年版 子供・若者白書／内閣府〕より

710,000人

100人中2.1人が若年無業者

数字で見る今年度の成果

新規登録者数

100人

就職決定者数

100人

講座開催回数と参加者数

117回 のべ327人



体験を通じて自信をつけます



職場見学で働くイメージが膨らみます



「はたらく」を応援

一人ひとりが抱える困りごとは様々ですが、行政や地域の団体や企業と連携を取りながら、仕事を通してなりたい自分に近づけるよう就労支援を実施しました。

対象

宝塚市在住で
仕事を
探している方

取り組み理由

2008年に起こったリーマンショックなどの影響で後退した経済状況は、2019年には回復に向かっているとはいえ、非正規雇用者は増え、その賃金は正社員の約65%という格差があります。

この数字は、経済的な困窮や生活が不安定な方が増加していることを示します。加えて近年では家族や職場・地域とのつながりが希薄になることによる社会的孤立などが大きな社会課題となっています。

これら社会課題を解決するため、私たちが運営する『はたらく応援センター』では就職に必要な知識やスキルの習得はもちろん、仕事を通しての社会参加や自己実現につながることを目的とした就労支援に取り組んでいます。

今年度の成果

私たちが行っている就労支援では就職の「決定」だけでなく、続けられるかという「定着」の考え方も重要です。仕事が決まっても短期間で離職・転職を繰り返してしまえば根本的な問題の解決にはなりません。そこで大切なのが求職者と事業所のマッチングです。一人ひとりの性格や強みを活かす仕事に就ければ職場「定着」につながりやすくなります。求職者に寄り添い、面談だけでなく講座や体験を通じて強みを一緒に見つけ、私たちとつながりのある事業所を紹介していく。そうすることで実際に職場定着につなげています。

このように地域でのネットワークを活かせるのは中間支援をしている私たちならではの就労支援です。

【担当：若山】

非正規雇用者数

21,650,000人

非正規雇用の
賃金は正社員の約65%

(〔令和元年賃金構造基本統計調査/厚生労働省〕より)

数字で見る今年度の成果

累計登録者数 57人

就職決定者数 57人

講座開催数 50回



働くための基礎になる
ビジネスマナー講座



農作業を通して
次のステップへの自信をつけます



実施事業 4.

地域づくり



参加型の施設管理運営とまちづくりプラザ閉館後の市民活動支援を通じて新しいコミュニティをかたちづくれます。

伊丹市立市民まちづくりプラザ指定管理業務（伊丹市） ……P16



サイエンスカフェ伊丹 片山さんに聞きました



サイエンスカフェ伊丹代表
『NPO 法人あなたらしくをサポート（らしーく）』理事

かたやま みき
片山 実紀さん

科学者をゲストに招いて参加者と気軽に語り合うサイエンスカフェを運営。また、すべての人が自分らしく生きることができるよう、男女共同参画の視点に基づく活動を行うNPO法人の理事として活躍されている。



まちづくりプラザが学びの場を提供し、また私たちの活動の意義や楽しさを実際に感じながら、様々な形で応援してくださったことはとても心強く、私たちの成長に必要不可欠でした。講座は、団体運営と自分の成長に役立ちました。また小さな団体にとって、いかに市民の方に情報を知っていただくかは大事な課題ですが、Facebookを使って、イベント告知や、取材に来てその様子を発信してくださったのは嬉しかったです。特に取材記事の文章はあたたかく絶妙の味わいで、私たちの宝物です。



つながり合いながら、地域づくりを『自分事』に

地域づくりを自分事と捉え、地域を自分たちで良くしていこうとする

『新しいコミュニティづくり』を目指し、市民まちづくりプラザの指定管理業務を行いました。

🔍 取り組む理由

『わたしたちのまちはわたしたちで考え わたしたちでつくっていこう』-2003年に伊丹市がまちづくり基本条例を制定したとき、条例の検討に携わった市民の皆さんの思いがこめられた言葉です。『伊丹市協働の指針』の中では、市民まちづくりプラザは協働を進めるためのつながりづくりを担う場とされています。

2017年度から宝塚NPOセンターが市民まちづくりプラザの指定管理者となり、市民活動を応援する講座の開催や相談対応のほか、ボランティアの皆さんと共に運営する珈琲屋台、本の交換を通じた市民交流の場づくりなどに取り組んできました。

📄 今年度の成果

市民まちづくりプラザの指定管理業務は4月から6月までの3ヵ月間で、7月からは休館期間となりました。休館期間中は、出張・電話・メールなどでの相談対応のほか、講座や市民活動団体の皆さんのアイデアを元に企画した交流会の開催、情報発信を行いました。また団体の活動取材してFacebookで紹介。講座がきっかけで、講師と参加者、参加者同士のつながりができ、お互いの団体を訪問したり、事業に協力することになったというご報告も。

今年度で受託業務は終了しますが、今後も『つながる場』となり、地域づくりを自分事として捉える方が増えるきっかけとなれば幸いです。

【担当：小山】

数字で見る今年度の成果

指定管理 業務期間 (4月~6月)	市民活動 相談者数	31人
	講座 開催回数	8回
市民活動支援 業務期間 (7月以降)	講座 受講者数	36人
	市民活動 相談者数	57人
	講座 開催回数	20回
	講座 受講者数	186人



笑いが絶えなかった
『アイスブレイク講座』



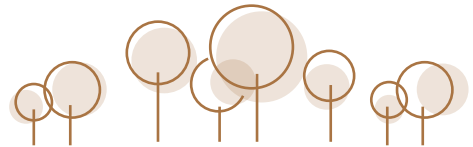
『市民みんなが先生徒講座』での
ざっくばらんな意見交換



実施事業 5.

市民ネットワークづくり

中間支援 NPO として、それぞれのセクターを結びつけるネットワークの推進に力を入れ、安全で安心な社会をつくります。



宝塚市文化財団 三戸さんに聞きました



公益財団法人宝塚市文化財団 事務局次長

み と とし の り
三戸 俊徳さん

地域の文化活動の発展と活性化のため「文化芸術の中間支援」として日々活躍している。さらに「地域のつなぎ手」となるよう地域活動にも積極的に関わっている。

日本アートマネジメント学会 関西部会 部会長。

宝塚NPOセンターは同じ建物の同じフロアで一緒にやってきた仲間です。刺激をもらえて一緒にチャレンジできる関係性。これまで「かえっこバザール」や「クラウドファンディングで夏祭りのうちわづくり」など、新しい取り組みを一緒に進めてきました。また市民活動に携わる方や地域とつながる場を作ってくれています。2019年度から文化財団もソリオ宝塚自治会の会員となって「夏まつり」に参加しています。

宝塚NPOセンターからは中間支援活動について、学ぶことや参考になることが多く、文化芸術分野の推進母体として、これからも協働でまちづくりに携わっていかれたらと思います。

これからもよろしくお願いいたします。

ともに動き、ともに考えながらまちづくりに取り組む

今年度の成果

『ソリオ宝塚自治会』や『ソリオ宝塚ふれあい夏まつり』の事務局を担うことで、活動者が減少している地域の力になりました。加えて『宝塚小学校区まちづくり協議会』では協議会メンバーとして参加し議事録作成の役割を担い、皆さんの活動の一助となりました。地域の一員として受け入れていただき、ともに活動に参加させていただけることは私たちの誇りです。

また、『宝塚ハーフマラソン』では婦人会の皆さんの豚汁炊き出しを手伝い、『宝塚市文化財団』とは『ソリオ宝塚ふれあい夏まつり』のうちわ制作を協働で企画。地域団体とこれだけ強く結ばれているNPO法人は珍しいと言われることは少なくありません。

今後も支えあい協働できる関係を大切にしながら、地域が明るく活発になるよう取り組んでいきます。

【担当：馬越】



地域が協働してつくる夏まつりにはたくさんの人が参加



学生インターンの受け入れ
神戸学院大学の学生が地域の方と交流



宝塚市文化財団と協働で作成した
オリジナルの子どもうちわ

地域との連携によるボランティア活動

今年度の成果

宝塚地域若者サポートステーション（P13）に登録された職業的自立を目指す利用者が、就労トレーニングの一環として、地域の様々なボランティア活動に参加しました。

宝塚市文化財団主催の『たからまつり』での『かえっこバザール』や、ソリオ宝塚ふれあい夏まつり実行委員会主催の夏まつりでは、販売チケットの事前作成や会場準備、当日の接客を通じて地域の人たちと触れ合うことができ、大変有意義な体験の場となりました。また宝塚市主催『宝塚ハーフマラソン大会』では、寒風のなかでの豚汁の炊き出しを体験。宝塚さずなの家KaRuTaで開催された『セラドン陶器特別販売会』では、商品の検品から値付けと搬入、会場の設営と当日の接客に至るまで、一連の販売活動を通して貴重な体験をしました。【担当：中野】



かえっこバザール会場



セラドン販売会の準備



夏まつりの準備



全員でつくるチームになるためのツキイチ全員研修

事業や部門は違って、団体の目指す方向は1つだということを再確認し、各自の業務に反映すること、職員一人ひとりの考えや、事業それぞれの意義を深めることを目的に月1回の全員研修に1年を通じて取り組みました。

取り組み理由

団体設立から20年を迎える中で社会は大きく変化しました。設立時を知っている職員は現在誰一人としていません。そのような状態の中で団体の在り方を全員で考える研修が必要になりました。団体の事業は2本の柱でできています。市民活動の促進や地域まちづくりのサポートをする「中間支援」部門、若年者やシニア、困窮者などの就労をサポートする「就労支援」部門。事業が違って、目指す方向は1つだということを再確認し、部門を越えた社会課題に取り組む視点を全員が持つために研修に取り組みました。



1年の取り組みを振り返り

今年度の成果

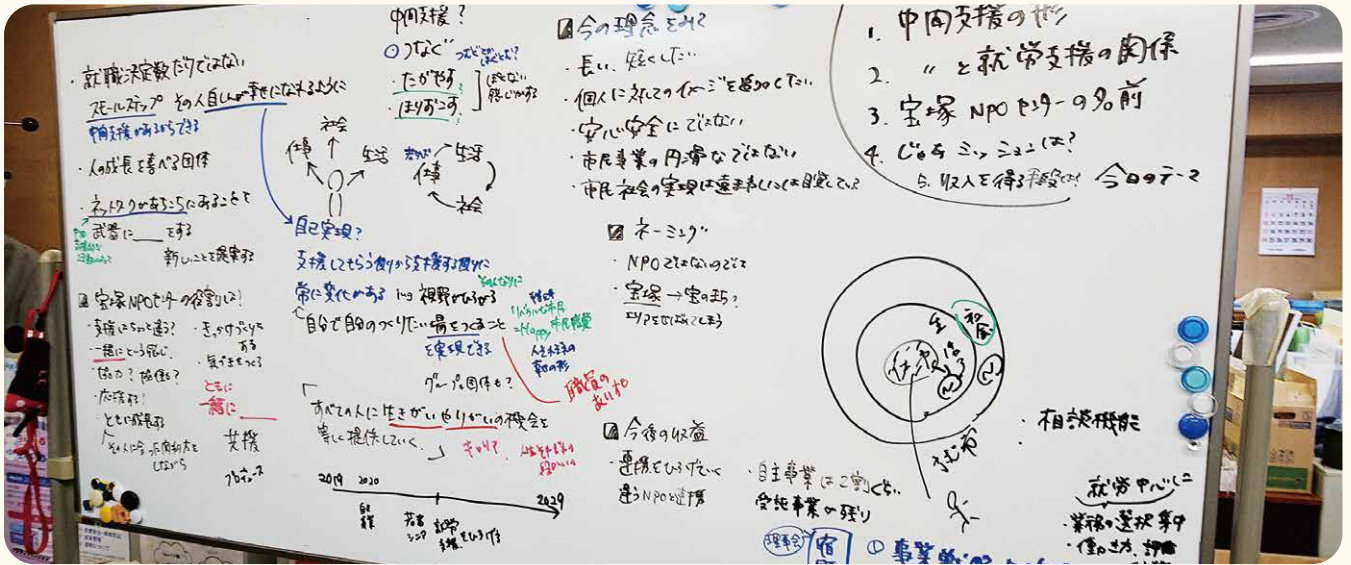
最初は戸惑いやしんどさを感じた職員もいたかもしれませんが、それでも1年を終えた私たちは、大きな成果や成長を得ました。情報共有や意見交換を毎月することで、それぞれの事業の現状や取り組む理由、意義が明確になり、中間支援部門・就労支援部門が相互につながり、私たちらしい支援が可能になっているということが理解できました(P21参照)。また、職員同士がランチの時間を一緒に過ごし、研修の中で対話を繰り返すことによって一体感が生まれ、より良いチームづくりの場となりました。研修により、全員が団体のことを改めて深く考える時間ができ、少しずつ個々の意識も変化、日々の業務でも活かせるようになったのは大きな成果です。【担当：高瀬】



みんなの意見を出し合った「えんたくん」



みんなでいただきます！
会話ははずみます



新しいビジョン・ミッションを考えるプロジェクト

自分たちはいったい何ものなのか？どこを目指すのか？複数の事業を進めている宝塚NPOセンターを振り返り、見つめなおし、進むべき方向性を考えた6か月でした。

🔍 取り組み理由

残念ながら、これまでの私たちは“何でも屋”でした。それは、目先の数字に追われ自分たちがすべきことが見えていなかったのが理由です。自分たちは何者かをハッキリさせ目指すものを確認する作業を通じて、自分軸を作る。その軸を判断軸として一貫性のある団体として、記憶され信頼を得ることを目的に『新しいビジョン・ミッションを考えるプロジェクト』に取り組みました。

📄 今年度の成果

ブランディングプロジェクトに参加したのは、正副理事長と6名の職員でした。私たちが、このプロジェクトで作りたいかったのは、ミッションやビジョンの標語ではなく作業を通じて『アウトブランディング』『インナーブランディング』『現在の事業の再確認とネットワークの再構築』です。すべてが完成したとは言い難いのですが、『月1回の全員研修』と合わせての作業は相乗効果により良い成果を出せたと思っています。これまでの宝塚NPOセンターの歴史から「強み」「らしさ」を確認することで、私たちの活動の中心には“人や組織の成長を支え喜べる”価値観があり、一人ひとりの幸せに向けてスモールステップを後押しする場面が多いことに気づきました。その結果、皆で言葉を探し考えつくし右記のビジョンとミッション、バリューを作り上げました。今後の宝塚NPOセンターは職員一人ひとりがこれを胸に進んでいこうと考えています。【担当：若山】

[VISION]

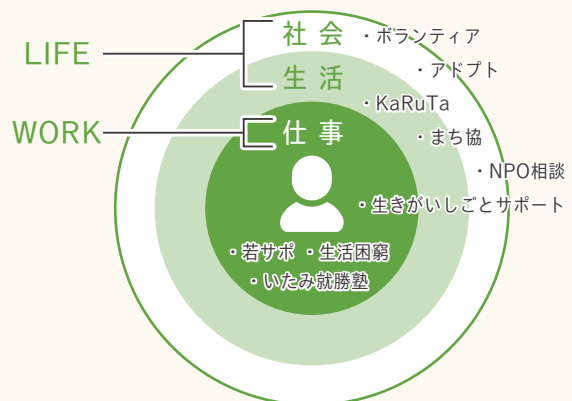
一人ひとりがありたい姿で
社会参加のステージへ立てる未来

[MISSION]

人と社会をつなぎ、
それぞれのHAPPYを応援する

[VALUE]

- ・一人ひとりのスモールステップに寄り添う
- ・LIFEとWORKの両面から見えた社会課題に向き合う
- ・社会参加の新しい形を提案する





宝塚NPOセンターならではの事例紹介 地域とのつながりが生んだ就労支援

私たちの活動には市民活動の促進や地域まちづくりのサポートをする「中間支援」部門と、若年者やシニア、困窮者等の就職をサポートする「就労支援」部門という2つの大きな柱があります。このページでは、2つの部門が協力することで生まれた新たな活動をご紹介します。



今年度の成果

「就労支援」部門の利用者Tさんは、職場体験を通じて人や社会とつながりを得ることができ、自信をつけて徐々にステップアップ。見事就職につながりました。Tさんの受け入れ先は、あるがまま交流活動センター“あるでこむ”の建設準備室の役目を備えた飲食店「しえあ〜キッチン」さん。「しえあ〜キッチン」さんは、宝塚NPOセンターの「中間支援」部門が起業の支援を行った「Pansy(パンジー)」さんとつながりがあり、職場体験の受け入れを申し出てくださいました。人と人とのつながり、想いの連鎖がなければ、今回の職場体験につながることはありませんでした。

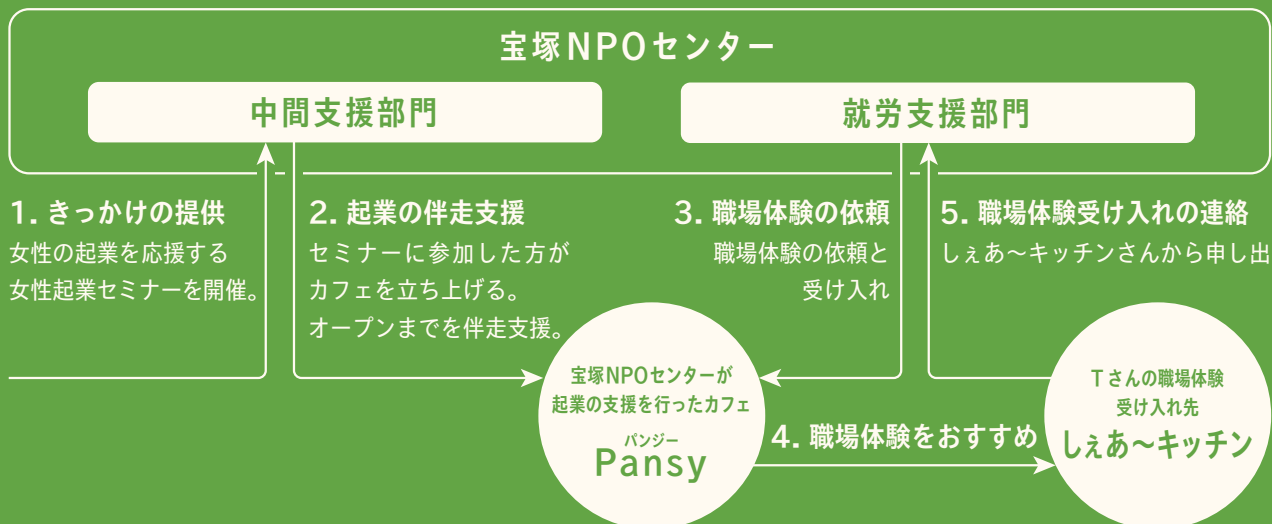


初めての接客体験、本番に備えて練習中！

私たちの2つの部門と、
関わりのある皆様の協力。
すべてが繋がった事例です。



全体の関係図



しえあ〜キッチンさんインタビュー

かねこ ひろこ にしかわ あらき きよみ
左：金子 博子さん 中：西川 ゆかりさん 右：荒木 澄美さん

3人だけではなく
ほかにもたくさんの方が
関わって運営しています！



職場体験の受け入れは最初、お互いに視線を合わせてお話することが難しかったり、声かけのタイミングに迷ったり、少しぎこちない雰囲気もありました。

しかし「お客様に喜んで頂きたい」という目的を共有(しえあ〜)できると、お話も動きもお互いに滑らかになっていったように思います。宝塚 NPO センターさんとの出会いは新しいつながりの第一歩でした。

事例紹介 / しえあ〜キッチン

職場体験をした利用者 Tさんとのエピソード
(書き手…しえあ〜キッチン金子さん・荒木さん・西川さん)

Tさんは場所と数字の記憶がとても素早く、しかも正確で、私がテーブル番号を間違っていることを教えて下さることもありました。また、コップに入れるお水の量もきちんと確認されます。体験 2 日目には「次の体験の時間を30分延ばしたい」など、限られた体験中での目標を自ら示されたことには Tさんの心意気の強さを感じました。

4 日目の体験を終えたとき、キッチンでの 1 食分を注文できる「しえあ〜チケット」をお渡ししました。後日、そのチケットを利用して来店された際にはキッチンへの感謝を伝えて下さるメッセージカードをご持参下さり、スタッフは感動で胸を熱くしました。その感動こそが「働く喜び、生きる喜び」に繋がることを Tさんが教えて下さったように思います。そして何より嬉しかったのは、その後就職された Tさんが、「初めてのお給料を使い…」と再度来店

下さったことです。キッチンのことを覚えておいて下さったこと、また会おうと思って下さったことにスタッフみんなで喜び、店内は騒然となりました。本当に嬉しかったです。

年末の納会へもご参加下さいました。大掃除をして、その後は食事やビールも一緒に楽しみました。「社会体験」という出会いをきっかけに、生活の一場面を共に過ごしたい、と思える関係が築けたことも私たちにはとても嬉しい出来事でした。



Tさんの声

参加のきっかけは家から近く交通費がかからないという理由からでした。体験は 4 日間。最終日に「まかない料理を食べる」ということを目標に、働く時間を増やしました。印象に残っていることは、イベントで屋台のたこ焼き屋さんに参加させてもらい、お茶の販売や、お客さんの呼び込みをしたことです。体験を通じて学んだこと、社会勉強になりました。

これが「働く」ということなんだと感ずることができ、今の就労につながったと思います。初任給の使いみちは、働くきっかけを作ってくれた方々に就職の報告と感謝の気持ちを伝えたくて、しえあ〜キッチンさんに食事をしに行きました。

最後に、しえあ〜キッチンの皆様、本当にありがとうございました！

2019年度 貸借対照表／活動計算書

2019年度特定非営利活動に係る事業会計

貸借対照表 簡易版

2020年3月31日現在

(単位：円)

借方		決算額		貸方		決算額	
資産の部	I 流動資産			I 流動負債			
	現金・預金			預り金	1,160,711		
	現金	290,910					
	現金2	132,650					
	小口現金	0		前受金			
	郵便貯金	3,775,535		会費前受金	68,000		
	普通預金	11,480,404		仮受委託金	1,028,252		
	定期預金	5,000,000					
	(現金・貯金合計)		20,679,499	未払金	3,898,613		
	その他の資産			未払法人税等	82,000		
未収入金	15,272,958		未払消費税等	1,606,800			
前払費用	790,363						
(小計)		16,063,321	負債合計		7,844,376		
(流動資産合計)		36,742,820	正味財産の部				
II 固定資産			前期繰越正味財産額	29,478,832			
敷金	1,500,000		当期正味財産増加額	1,096,052			
差入保証金	100,000		正味財産合計	30,574,884	30,574,884		
電話加入権	76,440	1,676,440					
III 繰延資産							
長期前払費用	0	0					
資産合計		38,419,260	負債及び正味財産合計		38,419,260		

2019年度特定非営利活動に係る事業会計

活動計算書 簡易版

2019年4月1日から2020年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当初予算	決算額
I 経常収益		
1. 受取会費	1,300,000	909,000
2. 受取寄付金	500,000	685,034
3. 受取助成金等	10,855,000	10,837,000
4. 事業収益	54,696,696	56,151,426
5. その他収益	50,000	93,983
経常収益計	67,401,696	68,676,443
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費	44,455,647	44,247,943
(2) その他経費	19,985,613	19,958,864
事業費計	64,441,260	64,206,807
2. 管理費		
(1) 人件費	569,000	490,069
(2) その他経費	3,002,000	2,817,959
管理費計	3,571,000	3,308,028
経常費用計	68,012,260	67,514,835
III 経常外収益		
1 雑収益	0	26,967
経常外収益計	0	26,967
IV 経常外費用		
1 雑損失	0	10,523
経常外費用計	0	10,523
税引前当期正味財産増減額	- 610,564	1,178,052
法人税等	82,000	82,000
当期正味財産増減額	- 692,564	1,096,052
前期繰越正味財産額	29,478,832	29,478,832
当期正味財産合計	28,786,268	30,574,884

2020年度 活動予算書

2020年度特定非営利活動に係る事業会計

活動予算書

2020年4月1日から2021年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当初予算
I 経常収益	
1. 受取会費	
正会員受取会費	700,000
賛助会員受取会費	300,000
2. 受取寄付金	1,000,000
3. 受取助成金等	10,189,000
4. 事業収益	56,468,540
5. その他収益	50,000
経常収益計	68,707,540
II 経常費用	
1. 事業費	
(1) 人件費	43,699,215
(2) その他経費	21,479,893
事業費計	65,179,108
2. 管理費	
(1) 人件費	600,000
(2) その他経費	2,424,000
管理費計	3,024,000
経常費用計	68,203,108
III 経常外費用	
1 雑損失	0
経常外費用計	0
税引前当期正味財産増減額	504,432
法人税等	82,000
当期正味財産増減額	422,432
前期繰越正味財産額	30,574,884
当期正味財産合計	30,997,316



2020年度 特定非営利活動に係る事業計画

2020年4月1日～2021年3月31日

1. 協働の場づくり

市民同士の協働、行政と市民の協働、中間支援と市民・行政の協働という3つのつながりの中から、地域のあちこちに対話を生み、お互いの理解を深めながら共に地域を考える参加型の社会をつくります。

	事業内容	実施目標
市民活動促進支援事業 (対象：宝塚市民)	特定非営利活動法人の起業・運営相談支援業務 市民活動団体等のコミュニティビジネス育成等支援業務 宝塚市みんなのまちづくり協議会ポータルサイト運営業務 まちづくり協議会の活性化を図ることを 目的とした広報等の企画 市民活動団体の自主財源の確保及び情報発信等支援業務 宝塚市みんなのまちづくり協議会ポータルサイトへの 広告掲載に係る業務	300回 250回 通年 通年 3講座 通年
ひょうごアドプト推進業務 (対象：阪神北県民局管内の市民)	アドプト団体活動支援	40団体
きずなの家事業 (対象：宝塚市民)	コミュニティカフェ運営 市民アーティスト応援 貸しスペース業務 市民団体イベント支援 市民ボランティア参加促進 チャレンジショップ	通年 通年 通年 通年 通年 通年

2. 人と組織づくり

持続可能な組織運営を相談者と一緒に考える姿勢を大切に、コミュニティビジネスやNPO活動を通じて、誰もが主役として参加できる社会をつくります。また、仕事というツールをもちい、誰もが社会とつながることを応援します。

生きがいしごと サポートセンター事業 (対象：兵庫県民)	NPO法人・コミュニティビジネス(CB)の設立支援 雇用創出 起業相談 シニア起業 各種講座	24法人設立 250人 80人 8団体 適宜
------------------------------------	--	------------------------------------

3. 仕事を通じた社会参加づくり

働くことで社会に参加することを支援し、就職成立者を増やします。

また、事業者はもとより多くの市民に現在の雇用状況を伝えることで、地域の理解を深めます。

	事業内容	実施目標
地域若者サポートステーション事業 (対象：地域を問わず就労に課題を抱える若者)	キャリア相談 職場体験プログラム 定着・ステップアップ支援プログラム	新規登録者 160名 就職決定者 96名 就職定着率 69%
就労準備支援事業及び自立相談支援事業[就労支援] (対象：宝塚市民)	求職活動支援 セミナー及び就労体験 就職後の職場定着支援	通年 通年 通年
学生向けキャリア事業 (対象：就職活動に困難を感じる大学3回生4回生)	就職活動に取り組むための講座 キャリアカウンセリング	5回シリーズ／回 随時
若者就労支援事業 (対象：地域を問わず就労に課題を抱える若者)	就労支援セミナー	18講座

4. 市民ネットワークづくり

中間支援NPOとして、それぞれのセクターを結びつけるネットワークの推進に力を入れ、安全で安心な社会をつくれます。

情報提供、講演 (対象：一般市民、市民活動団体)		通年
東日本大震災支援 (対象：関西への避難者)	就労支援 生活相談	通年 通年
シニアのネットワーク事業 (対象：宝塚市内外のシニア)	レクリエーション事業	27回
ネットワーク事業 (対象：一般市民、市民活動団体)	自治会事務局 地域施設管理事務局 兵庫ひきこもり相談支援センター事業 ひきこもり居場所	通年 通年 通年 通年

2019年度 支えてくださった皆さん

2019年度 支えてくださった皆さん

法人会員
医療法人 回生会宝塚病院
株式会社 エンプレス
生活協同組合 コープこうべ
ソリオ宝塚都市開発株式会社

4団体

個人正会員
内田 梓
海野 順子
越知 昌賜
遠座 俊明

28名

門 隆志
喜多 毅
橘田 てつ子
倉橋 滋樹
佐藤 健二
塩谷 惣太郎
田中 茂
鶴丸 悌二
中野 裕行
中山 光子
西井 進剛
林 宏昭
福島 達夫
福間 則博
細谷 崇
牧里 每治
三木 さくら
森脇 やすと
山添 令子
山田 忠生
吉野 茂子
代継 規弘
若山 晴司

匿名希望 1名

団体会員
愛's さぼーと
アミーゴ
いきいきシニアゼミナール

42団体

えくぼ
エスリード宝塚自治会
オフィス・ナウ
川西市手をつなぐ育成会
川西もみの木
キッピーフレンズ
共生苑
きらら
きらり
玄武洞ガイドクラブ
国際交流団体未来
コスモス
コトバノミカタ
市民活動フォーラムみのお
水道施設整備技術協議会
そら
ソリオ宝塚自治会
宝塚園芸福祉協会
宝塚市栄町西自治会
宝塚市社会福祉協議会
宝塚市花のみち自治会
宝塚青年会議所
宝塚投資塾自考庵
宝塚つ・む・ぐの家
宝塚N I S I T A N I
宅老所 光明の家
とことこ
ネパール・ヨードを支える会
バイカモ楽農会
日高共同作業所
支援の会ひまわり
ヒューマンサポート関西
兵庫空き家相談センター
ほっと宝塚子育てネットワーク
まちづくりの会すけっと
武庫川がっこう
めふのお家
ユーズ宝島
れいんぼう

賛助会員
飯室 裕文
生駒 由香里
石橋 さなえ

142名

石原 朱実
石渡 裕子
和泉 昌三
井上 三恵
井上 芳子
岩佐 将志
上坂 和子
馬越 康弘
太田 恵子
大谷 友比古
大西 和昭
大橋 良子
岡部 加奈子
籾原 聖子
風早 寿郎
金井塚 美根
金岡 重子
金谷 信子
川口 章子
川久保 雄介
河辺 千佳
河本 美代子
菊池 郁夫
木佐一 豊人
木村 佳友
九鬼 麻衣
久世 直子
工藤 圭子
國下 透
車田 清美
黒木 雅子
小副川 久代
小林 浩昭
小山 直美
小山 美恵子
佐藤 紫乃
鮫島 英雄
品川 こころ
澁谷 富子

庄野 達也
 新堂 道子
 新福 泰雅
 直田 春夫
 須藤 栄一
 須永 容子
 高野 学
 高橋 章子
 高橋 宏
 高橋 由希
 高原 宏子
 高松 泰子
 竹内 志津香
 多胡 葉子
 立川 文代
 田中 章子
 田中 保子
 田村 博美
 團 泰雄
 釣島 平三郎
 出澤 淳一
 東郷 寛
 塔筋 幸造
 仲 清人
 永井 麻子
 永井 弘行
 仲下 輝美
 中西 志津子
 中村 豪
 西根 千鶴
 西村 和弘
 根来 城
 子延 優子
 能登 将史
 原 啓
 原口 陽子
 疋田 智子
 緋本 順子
 藤井 佳代子
 藤岡 和枝
 藤田 昭
 藤田 かおり

藤津 忍
 古田 時子
 細見 克行
 前田 敦司
 正木 みつ子
 松岡 香江
 松永 星子
 松藤 聖一
 松前 幸子
 丸谷 典子
 三戸 俊徳
 三原 伸也
 三原 裕二
 宮本 真由美
 宮脇 瑞穂
 村上 克己
 村上 昌輝
 森下 昭博
 森田 かつ子
 森田 義
 森田 隆作
 森本 樹
 谷川原 宇子
 安原 央
 保元 温
 山口 一史
 山口 耕平
 山本 敏晴
 横山 知哉
 ビッグスタッフ
 武庫が丘まちづくりビューロー
 C.U.P

匿名希望 26 名

寄付者 32名

秋澤 辰弥
 石橋 さなえ
 井上 芳子
 大上 清
 大西 和昭
 掛水 須美枝
 金谷 信子
 橘田 てつ子
 工藤 圭子
 小林 浩昭
 小林 健人
 竹内 務
 中山 修
 中野 裕行
 幅田 博樹
 濱本 佳子
 三戸 俊徳
 山添 令子
 山口 一史
 横山 知哉
 いきいきシニアゼミナール
 宝塚園芸福祉協会
 グループ伽羅
 宝塚の杜芸術倶楽部
 阪神シニアカレッジ同窓会

匿名希望 7 名

(敬称略・順不同)

ご寄付について

22年間の寄付総額
 36,711,870 円

2019年度の寄付金額
 685,034 円

(2020年3月末時点)

私たちの活動は、皆さまに
 支えられています。詳しく
 は右側のQRコードか下記
 URLをご確認ください。



<http://hnpo.net/support/>

ボランティア

様々な角度や立場からのご意見や一緒に作業をする際の何気ない会話は、私たちに多くの気づきを与えてくれ、また新しい風を吹き込んでくれます。

普段の細かな事務作業から、きずなの家 KaRuTaでの接客・清掃、地域のお祭りなどの行事、宝塚 NPO センター主催イベントなどに、若者からシニアまで多くのボランティアの皆さんが関わって下さいました。

私たちにとって、ボランティアの皆さんは欠かすことのできない活動のパートナーです。今後も多くのボランティアの皆さんと共に、人が行き交う市民活動の交差点として活気あふれる宝塚 NPO センターを目指したいと考えています。

多くのサポート、ありがとうございました。

2019年度のボランティア時間

2,084 時間

ボランティア時間を労働時間に換算すると

常勤職員 1 名の **1.5** 年分

無償役務を換算すると

1,870,000 円
のご寄付に相当

職員

石堂 弥華子
石橋 さなえ
馬越 康弘
加藤 幹子
工藤 圭子
小山 直美
篠原 久美
高瀬 梓
竹内 志津香

竹林 美咲
中西 志津子
中野 裕行
中山 光子
子延 優子
藤田 かおり
山下 智子
吉野 茂子
若山 晴司

2020年3月末現在 50音順



役員一覧

理事長	中山 光子	認定 NPO 法人 宝塚 NPO センター
副理事長	越知 昌賜	兵庫県立大学 経営学部 特任教授
副理事長	田中 茂	特定非営利活動法人 シミンズシーズ代表理事
理事	内田 梓	認定 NPO 法人 宝塚 NPO センター
理事	西井 進剛	兵庫県立大学 経営学部 教授
理事	福島 達夫	福島労務サポートオフィス
理事	細谷 崇	CoderDojo 西宮・梅田代表
理事	山添 令子	認定 NPO 法人 宝塚 NPO センター 会員
理事	若山 晴司	認定 NPO 法人 宝塚 NPO センター
監事	遠座 俊明	大阪ガス株式会社 エネルギー・文化研究所
監事	中原 さくら	中原会計事務所

2020年3月末現在

認定 NPO 法人 宝塚 NPO センター 2019 年度事業報告書

発行日：2020年6月

著者：認定 NPO 法人 宝塚 NPO センター

制作：加藤 幹子、小山 直美、高瀬 梓、若山 晴司

デザイン：時岡 佑太（トキオカデザイン）

発行：認定 NPO 法人 宝塚 NPO センター

〒665-0845 宝塚市栄町 2-1-1 ソリオ 1-3F



認定NPO法人

宝塚NPOセンター

TAKARAZUKA NPO CENTER

〒665-0845 宝塚市栄町 2-1-1 ソリオ 1-3F

TEL : 0797-85-7766 FAX : 0797-85-7799

Mail : zukanpo@hnpo.net URL : <http://hnpo.net>